

安心・安全の医療と信頼の看護のために

看護師研修会

1年目の看護師は、メンタルヘルスと個人情報・倫理について学びました。

メンタルヘルスでは、「自身を振り返ることができた」、「ストレスの発散について考えることができた」などの感想があり、個人情報・倫理研修では、「個人情報の取り

1年目研修

看護教育では、患者さんの安心・安全の医療と信頼の看護のために、日々教育活動に取り組み、看護部では毎年、担当の師長・主任・スタッフが中心となって、様々な研修を行っています。



急変時エキスパート研修での実習



2年目研修

2年目看護師は、看護研究に向けて基礎となるプロセスレコードに取り組みました。自分たちが医療の現場で気になったワンシーンを思い出し、患者さんの言動・行動に対し、なぜこ



2年目研修



研究に向けて基礎となるプロセスレコードに取り組みました。自分たちが医療の現場で気になったワンシーンを思い出し、患者さんの言動・行動に対し、なぜこ

2年目になると役割が増え、業務も多忙となり、看護にとって振り返る時間をとることが難しくなります。そんな中、じっくりと患者さんのことを考える貴重な時間を

2年目になると役割が増え、業務も多忙となり、看護にとって振り返る時間をとることが難しくなります。そんな中、じっくりと患者さんのことを考える貴重な時間を

す。患者さんを見る中で、疾患だけではなく、入院までの経過・生活背景や社会背景など、様々な視点から患者さんをとらえることが重要であるということを学びました。

急変時エキスパート研修

患者さんが急変した時に、即対応が必要となる看護師を対象に開催している、急変時エキスパート研修を行いました。

急変時エキスパート研修は、全3回コースで開催し、1回目では基本的な技術スキル、2回目では、急変時のシナリオで実践を学び、3回目でのための試験を行っています。

合格すると、急変時エキスパート認定看護師となり、各部署での学習会の開催や、次回コースでのインストラクターという役割、また実際の急変時には、リーダーシップを発揮してもらうという様々な役割を担ってくれています。知識・技術を深め、患者さんのいのちを守るための研修を行っています。

看護師それぞれが看護部の理念の下、日々の業務の中で患者さんに安心・安心の医療と看護が実践できるよう学んでいきたいと考えています。

いのちをまもる総行動

一人でも多くの共感を呼び、制度や政治を動かす力へ

「医療・介護・福祉に国の予算を増やせ!」26いのちをまもる総行動」で、日比谷野外音楽堂へ行ってきました。

同仁会からは10人、全体で2400人に加え、200カ所でのZoom参加がありました。

コメディアン松元ヒロさんの政治トークショーで盛り上がり、共産党の小池晃議員始め、立憲民主党、れいわ新撰組が

らの挨拶で、軍事費ではなく社会保障重視の政治を、と皆の士気を上げてもらいました。

医療、介護、福祉現場での低賃金、過重労働による人手不足、マイナス改定となった診療報酬、介護報酬の見直し、マイナ保険証問題などについて、各団体からリレートークがあり、その後銀座を通り、東京駅までパレードを行いました。

全国から医療、介護従事者が集い、志一つに東京の道路を歩く景色は、感慨深いものがありました。東京の街は道路が広く、ビルの間から見える空は、深い青で、思っ



いたより澄んでいました。道行く人は、皆ではありませんが、私たちの訴えやシユプレヒコールに耳を傾けてくれ、好奇心ではない?写真を撮ってくれた人もいました。帰りの新幹線までの時間に、ご当地!もんじゃ焼きを堪能しました。もちもち明太に、チーズと大葉のトッピングで、屋外での集会和パレードの疲れも吹っ飛び、爽快感もあり、充実した東京出張となりました。

（鳳在宅介護支援センター 小川 裕美子）

大阪民医連社保ピースセミナー開催 患者さんの生活背景や何ができるかを考える

ピースセミナーとは受

講者だけではなく規格連営も大阪民医連の若手職員が行う平和について考える学習会で、6回コー



スで開催されています。

9月20日に第8期大阪民医連社保ピースセミナーの第4回目を耳原総合病院で開催しました。

午前は、「無料低額診療の実際」をテーマに医療ソーシャルワーカーの牧係長から無料低額診療を受ける人が年々増えてきている実態とその取り組みについて学びました。

次に、吉本事務長から「たたかう経営」として「コロナ禍や物価高騰の中、診療報酬が実質引き下げられることに対して

の耳原の取り組みを紹介していただき、社会に目を向けて声を上げることの大切さを感じました。

続いて、院内見学では14階にある緩和ケア病棟で患者さんが好きなウイスキーを使ったアロマを手作りして実際に使用するなど、患者さんに寄り添う環境づくりの取り組みが印象に残りました。

また、2023年に導入した手術支援ロボット(ダヴィンチX)の説明では、多くの参加者が関心を寄せていました。

午後からは、大矢副院長から「SDH(健康の社会的決定要因)と経営」についてお話しいただき、格差が広がって



く中でSDHの視点が今後より一層重要になることを実感しました。

私たちが日々の業務で関わる患者さんの生活背景やその人のために何ができるかを考えながら取り組んでいかなければならないと思います。

(本部組織部 井上 日向子)